

平成 22 年 8 月 30 日修正 想田 光

平成 22 年 8 月 26 日修正 想田 光

平成 22 年 8 月 10 日修正 想田 光

平成 22 年 8 月 8 日作成 想田 光

第 7 回日本加速器学会年会インフォーマルミーティング
(ビーム物理研究会世話人会) 議事録

日時：2010 年 8 月 4 日(水) 17:15-19:30

会場：姫路市文化センター 第 3 会議室

出席者(順不同・敬称略)：

浜(会長)、安東(副会長)、上坂、小方、柏木、鎌田、紀井、栗木、後藤、小山、境、坂上、
佐々木、想田、高井、田川、田中、富澤、長澤、中村(衆)、中村(剛)、南部、野崎、野田、
羽島、羽原、宮原、宮本、武藤、森、安田、山本、全

司会：森

書記：想田、羽原

配布資料：

2010F-1: 前回議事録

2010F-2: ビーム物理研究会会則・細則

2010F-3: 物理学会年会開催までのスケジュール

2010F-4: 物理学会領域・キーワード一覧

2010F-5: シンポジウム・招待講演の提案状況・前回開催時の他領域との合同セッション一
覧

議事内容：

1. 前回議事録確認
2. 報告・審議事項
 - A. ビーム物理研究会関連
 - B. 日本物理学会ビーム物理領域関連
 - C. 日本加速器学会関連
3. その他

1. 前回議事録確認

2010年3月21日に行われた日本物理学会第65回年次大会インフォーマルミーティング(ビーム物理研究会総会)の議事録について、配布資料(資料 2010F-1)に基づいて概要を読み上げる形で確認が行われ、承認された。

2. 報告・審議事項

A) ビーム物理研究会関連

A-1. 次回ビーム物理研究会の開催について

次回ビーム物理研究会の開催場所・日時について、以下の旨の案内があった。

- ・研究会名は「理研シンポジウム ビーム物理研究会 2010」となる。
- ・開催日は11/11(木)-11/12(金)。8月下旬に第1サーキュラー(申込受付)、10月初旬に申込締切、10月中旬にプログラム決定、第2サーキュラーの予定である。
- ・開催場所は理研・仁科加速器研究センターRIBF 棟2F大会議室(最大収容人数100人、ホール前でポスターセッション20件も可能)。
- ・「大強度ビーム」のテーマで招待講演3件(RIBF, J-PARC, Super KEK-B)を予定している。

A-2. ビーム物理研究会開催に関連する検討事項について

上記A-1の報告に基づいて議論が行われ、下記の方針で進めることになった。

- ・「大強度ビーム」を研究会全体のテーマとしてしまうと一般発表で制約が生じる印象がある。したがって、「大強度ビーム」は招待講演のテーマとし、一般の発表はハードウェアの話も含めテーマなどの制限を設けない形とする。
- ・後述(A-5)の若手の会設立の第一歩として、学生セッションを設けたいとの提案があり、具体的な形式について議論が行われた。一案として2時間半程度の口頭発表によるセッションという形が提案され、正式には後日柏木氏(東北大)が案をまとめプログラム委員会に提案することになった。
- ・学生への旅費の補助について、課題の確認・議論を行った。いくつか選択肢が挙がったが、理研事務と相談する必要があるため、後藤氏が再度理研事務と相談することとなった。

以上の招待講演、若手セッションなどの扱いも含めたプログラム委員会を構成することが決まった。プログラム委員として、後藤(理研)、福西(理研)、上垣外(理研)、浜(東北大)、柏木(東北大)、小山(東大)、富澤(JASRI/SPring-8)、中村(JASRI/SPring-8)の計8名が選出され、一同の承認を得た。

A-3 研究会合関連・その他

報告・議論とも特に無し。

A-4. 研究会世話人会の活性化とこれに関わる会則・細則の改正について

浜会長より、現在の会則・細則では、世話人の選出に総会での承認を必要としており、新たに世話人となってほしい人間がすぐに活動できないという問題があり、会則第5条の3を、会長の推薦により世話人に追加できるようにしたいとの提案があった。

これについて議論が行われ、世話人が世話人代表(ビーム物理研究会会長)を選ぶので、会長の一存で世話人を選ぶのは規則の整合がとれないとの意見があった。また、現在の会則は物理学会ビーム物理領域の母体となるより前(2001年)に作られており、全体的な改正を要するとの意見もあった。

今回の提案については正式な承認よりは実質的な議論などの活動が重要であるので、随時「みなし世話人」の形で世話人会メーリングリストへの登録を可能とし、正式な世話人への就任は今までと同様に総会での承認を必要とするという形で解決できるとの意見でまとり、次回総会までは現在の会則・細則のままで運用を行うことになった。

A-5. 若手の会立ち上げについて

柏木氏(東北大)より、前回総会にて提案・議論された若手の会について下記の通り進捗の報告があった。

- ・担当者は大学所属の若手スタッフとして下記を予定している。

北海道・東北：柏木茂(東北大)

関東：中尾圭佐(日大)、坂上和之(早大)

中部：山本尚人(名大)

近畿：紀井俊輝(京大)、細貝知直(阪大)

中国・四国・九州：宮本篤(広島大)、飯島北斗(広島大)

- ・九州、北海道のビーム物理会員がいないので、今後勧誘したい。

・若手の会について、各種夏/冬の学校・若手交流会のような形で同世代のつながりを作る場を設けたく、可能なら H23 年度から開始したい。学生または PD、助教が企画し、講義+研究会(理研冬の学校では昼間講義、夕食後に博士課程院生による研究発表の形)で考えている。

・資金面については、ビーム物理研究会からのサポートは無しで、担当大学による補助などを活用できるよう努力する。

この報告について議論が行われ、若手の会立ち上げのメリットとして研究会の学生会員の増加とそれに伴う活動の活性化が考えられ、学生・若手にとっては研究だけではつながりがなかった人と交流できることが挙げられた。これに関して、原子核三者若手など他分

野の若手交流会への参加や、加速器全体での若手交流会のような形式にすることでより広い形での交流が期待できるのではないか等の意見があった。

また、物理学会において若手の会に関するインフォーマルミーティングを開催してはどうかとの提案もあった。

若手の会の具体的な運営については様々な意見が挙げたが、積極的な若手の活動は歓迎する意見でまとめ、具体案については継続して柏木氏が中心となり検討を進めることになった。

A-6. 研究会運営関連・その他

報告・議論とも特に無し。

A-7. その他

報告・議論とも特に無し。

B) 日本物理学会ビーム物理領域関連

B-1. 第 66 回年次大会スケジュール

物理学会までの日程について配布資料(資料 2010F-3)の通り説明があり、重要事項として

- ・招待講演・企画講演・シンポジウム申込期間：10/8-11/16
- ・一般講演申込期間 11/5-11/28
- ・概要集原稿締切 2011/1/21

が確認された。

B-2 申込キーワードの追加・変更について

昨年度第 6 回加速器学会におけるビーム物理研究会世話人会で議論され、その後メールでの議論を経て改定され、第 65 回年会において使用された申し込みキーワードについて資料 2010F-4 の通り説明があった。

今後の見直しについては、意見があればメーリングリストを通じて議論することになった。

B-3 合同シンポジウム・招待講演の提案状況について

領域運営委員・森より、シンポジウムについて領域 2 を主領域とする「極限高強度場の科学」の打診があるとの報告があり、ビーム物理領域も参加することで了承を得た。

それ以外のシンポジウムについては、医療、ビーム冷却、次世代放射光源がこれまでの議題として上がっているが、現在は招待講演を含めて企画募集中であり、後日メーリングリスト等で提案を呼びかける旨の説明があった。

B-4. 他領域との合同セッションについて

領域 2 との合同セッションについては開催継続が確定しており、今回はビーム物理領域が主領域となる。

その他、昨年度は年会申込受付時に選択肢として下記の合同セッションの希望を受け付けたが、発表数が少なく実現に至らなかった。今回これらの未成立セッションの扱いをどうするか議論されたが、選択肢としては残しておくのがよいとの結論に至った。

- ・ビーム-素実
- ・ビーム-実験核物-素実(J-PARC と原子核素粒子実験に関する合同セッションを開催)
- ・ビーム物理(SR/FEL/ERL)-領域 1 (量子エレクトロニクス分野)
- ・ビーム物理-領域 10(X 線・粒子線分野)

B-5. 一般講演の申込状況について

過去の年会での一般講演の発表件数は、2004-2006 年が 70 件、2007-2009 年が 45 件程度であり、2010 年は 52 件であった旨説明があった。

合同セッションの講演数は、現在両方の領域でカウントしており、上記は領域 2 との合同セッションを含んだ数字である。

発表件数増加のため、物理学会に入っていない人に入会と物理学会ビーム物理領域での発表を奨励する旨のアナウンスがあった。

B-6. 若手奨励賞について

浜会長より、現在の若手奨励賞の受付・審査状況について下記の通り説明・提案があった。

・枠としては 2 名まで出せるが、例年 1 人しか出していない。これは推薦・応募が少ないのが主要因である。

・対象を増やす目的も含め、現在、賞の対象は査読付き論文のみで学位論文が除かれているが、正式審査を通過した学位論文も対象としたい。

後者の提案についての議論の結果、学位論文が査読付き論文と比べて価値が劣ることはないとの共通認識が得られ、提案は承認された。

B-8. 新執行部・次期領域運営委員について

鎌田現領域代表・浜次期領域代表、安東次期副代表より挨拶があった。

想田領域運営委員(任期 2010 年 5 月-2011 年 4 月)の後任領域運営委員・世話人(任期 2011 年 5 月-2012 年 3 月、任期に関する規則変更のため 3 月まで)として、KEK・J-PARC センターの中村氏が承認された。現在の世話人体制は下記の通りとなる。

期間	世話人
2009年5月-2010年4月	境 武志
2009年11月-2010年10月	森 道昭 (現世話人)
2010年5月-2011年4月	想田 光 (現世話人)
2010年11月-2011年9月	羽原 英明
2011年5月-2012年3月	中村 衆

B-9. その他

報告・議論とも特に無し。

B-10. 物理学会欧文誌へのビーム物理領域のコミットについて

野崎氏(KEK)より下記の通り報告があった。

・物理学会の欧文誌について、現在は物性中心の *Journal of the Physical Society of Japan (JPSJ)* の 1 誌体制であるが、京大基研と物理学会からなる理論物理学刊行会によって刊行されている *Progress of Theoretical Physics (PTP)* の刊行を物理学会に移行し、同時に PTP は実験物理も含む素核分野の総合誌として、2013 年から物性領域 1 誌、素核領域 1 誌の計 2 誌の体制に移行する。

・PTP については実験領域を含むため、2013 年より誌名を *Progress of(in) Theoretical and Experimental Physics* (仮称) に変更する予定である。投稿項目としてビーム物理が新設される。

・合同編集部は素粒子・原子核・宇宙線・ビーム物理(実験)で 3 人ずつ編集委員を出し、全体の編集長には元阪大の長島氏が就任予定である。ビーム物理領域では、鎌田、浜、後藤の 3 名が編集委員となる予定である。

・*Progress* 誌についての誌名変更は 2013 年を予定しているが、2010 年 9 月 1 日付で編集委員が選出されると同時に実験系の論文投稿の受け入れを開始する。この変更については同じく 9 月 1 日に Web で公開される予定である。

B-11. その他

報告・議論とも特に無し。

C) 日本加速器学会関連

報告・議論とも特に無し。

3 その他

3-1. 次回世話人会について

次回世話人会については、2011年3月の第66回物理学会年会で行い、2010年11月の理研でのビーム物理研究会では行わないことに決定した。

3-2. その他

KEK・野崎氏より、来年 KEK においてレーザープラズマに関する研究会を行う旨報告があった。

これは、今年 6/30-7/1 にレーザープラズマの研究会を行ったことに伴い、日本のレーザープラズマ研究の現状を広く知ってもらいたいとの考えに基づくもので、来年を第 1 回として定期的に行う事を予定している。

この研究会とビーム物理研究会との関連について議論がなされ、特に来年のビーム物理研究会に関して、今年度の大強度ビームと同様の招待講演テーマとして扱いビーム物理研究会の一部として行った方が良いとの意見や、ビーム物理研究会は独立して行った方が良いのでは等の意見が挙がり、改めて議論することになった。

以上